Information #12

チーフ・アンパイアから選手へのメッセージ

アンパイア制　フリート・レース

RRS 付則 MR（アデンダム Q）を用いて行うメダル・レース

以下のインフォメーションには「規則」は含まれません。メダル・レースは RRS 付則 MR（アデンダム Q）による修正を含む、通常のセーリング競技規則（RRS）の下で行われます。付則 MR はすべてのメダル・レースと、メダル・レースに係るレース前・レース後のことに適用されます。付則 MR には以下のような「通常の」競技規則に対する変更が含まれます。

●レース中の抗議手順

レース中、あなたは他艇を以下の場合に限って抗議することができます。

- 自艇が関与した艇 vs 艇のインシデント
- 規則 31 または規則 42 に違反した他艇

「プロテスト」と声を掛け、赤色旗を掲げることによって抗議することができます。
アンパイアと、抗議したい相手艇が、しっかりと声かけが聞こえ、旗が見えるように掲揚してください。
相手艇が回転ペナルティーを行うか、アンパイアが判定の信号を発したら、旗を降ろしてください。
「プロテスト」の声かけに加えて腕を挙げる等アピールすることでアンパイアが抗議に気付きやすくなるかもしれません。

●レース中のペナルティー

もし、規則に違反したかもしれないと思ったとき、他艇から抗議されたか否かにかかわらず、インシデント後直ちに自発的なペナルティーを、下記のとおり行うことができます。

- 1 回転ペナルティー：1 回のタックと 1 回のジャイブを含む 1 回転を速やかに行う。

もし、ペナルティーを行うことにしたが、まわりの艇から離れる必要がある場合、アンパイアの方を見て手を挙げ「ペナルティーをします！（ I'll turn. ）」と伝えることでアンパイアはペナルティーを履行しようとしていると判断したうえで処置をします。

抗議を確認した後アンパイアは、以下のとおり信号を発します。

- グリーン＆ホワイト旗を掲げホイッスルを吹く。「ペナルティーを課さない」ことを意味します。
- 赤色旗を掲げホイッスルを吹き、1 艇またはそれ以上の艇を特定するため声かけする。「ペナルティーが課された、または未履行のままである」ことを意味します。
- 黒色旗を掲げホイッスルを吹き、1 艇またはそれ以上の艇を特定するため声かけする。「艇を失格とする」ことを意味します。

アンパイアに赤色旗とホイッスルで特定された艇は、速やかに 1 回転ペナルティー（上記参照）を履行してください。アンパイアは、たとえ別の艇が自発的ペナルティーを行っている場合でも、抗議した艇を含むどの艇でも特定をすることがあります。

ペナルティーを履行中（ペナルティーを履行するために他艇から離れるよう帆走中を含む）、その操船はプロパー・コースを帆走しているとはみなされません。

もし規則に違反したことを分かっている場合には、基本原則「スポーツマンシップと規則」は、あなたに自発的なペナルティーをできるだけ速やかに行うよう要求しています。規則に違反したことが分かっているのにアンパイアの信号を待つことは、スポーツマンシップ違反とみなされることがあります。その場合、アンパイアは追加のペナルティーを課すことができます。よって、規則に違反したことが分かっているのにペナルティーを行わない場合には、2 回またはそれ以上のペナルティーを課されることがあります。

規則 31 もしくは規則 42 に違反した場合、ペナルティーを履行した後でもまだ有利を得ている場合、故意に規則に違反した場合、正しくペナルティーを履行しなかった場合、スポーツマンシップ違反を犯した場合、アンパイアは他艇からの抗議が無くてもあなたにペナルティーを課すことがあります。ペナルティーの信号が発せられたのにそれを履行しなかったり、履行はしたが正しく行わなかったりした場合には、アンパイアはペナルティーが未履行で残っているとの信号を発します。

もし違反が重大だったり繰り返されたりした場合、マークを間違った側で通過し、その誤りを次のマークを回航するかフィニッシュする前に正さなかった場合には、アンパイアはその艇を失格とするために黒色旗を使うことがあります。もし失格とされた場合には、速やかにレース・エリアから離れなければなりません。

フィニッシュする前にすべてのペナルティーを完了していなければなりません。もしフィニッシュしているときに、あるいは、フィニッシュラインを横切ったのちに、ペナルティーを履行する場合には、ペナルティーを行い、それから正しくフィニッシュし直さなければなりません。

インシデントで規則に違反し、傷害や重大な損傷をもたらした場合には、あなたのペナルティーは、規則 44.2(b)のとおり、そのレースからリタイアすることでなければなりません。

●レース中にアンパイアが発することができるその他の信号

- X 旗を掲げホイッスルを吹き、1 艇またはそれ以上の艇を特定するため声かけする。「艇はレース委員会により OCS、UFD または BFD と記録された」ことを意味します。この信号はスタート信号の 2 分後以降いつでも発せれます。

もし特定された場合には、その艇は速やかにコース・エリアを離れなければなりません。

●レース前およびレース後の抗議または救済要求

艇はレースが始まる前にペナルティーを課されることがあります。その場合には、レース委員会は他のすべての艇にこの得点変更を通知します。

メダル・レースの意図は、あらゆる状況を水上で決することにあります。しかしながら、レース中には抗議できない特定の違反や事情については、フィニッシュ後直ちに抗議または救済要求をすることができます。これらの抗議または救済要求は書面である必要はありませんが、レースの終わりにレ

ース委員会艇からＢ旗が掲揚されている間に、またはその前に、レース委員会に伝えることが求められています。

救済要求の可能性は極めて限られています。あなたは、アンパイア、レース委員会、主催団体、テクニカル委員会、プロテスト委員会の行ったこと、または行わなかったことを理由にして救済要求することはできません。救済を与える唯一の可能性は、危険に陥っている誰かに援助を与えたことに対してです。

アンパイアまたはプロテスト委員会が行った判定に対して上告することはできません。また、審問の再開を要求することもできません。

●その他の規則

付則Ｐのペナルティー方式は適用されません。規則 42 のペナルティーも、アンパイアによって赤色旗を用いて信号が発せられます。規則 42 違反のペナルティーは、艇が大会でそれまで課されたペナルティーの数に関係なく、1 回転です。

障害物での「ルーム・トゥー・タック」。規則 20 が適用され声をかける場合は、声かけに加えて、腕信号を行うことが求められています。

フィニッシュ後できるだけ早く、フィニッシュ順位をレース委員会のフィニッシュ艇で確認することを勧めます。もし、フィニッシュ順位が間違っていると考える場合には、レース委員会に直ちに伝えて下さい。あなたはこの件で救済要求することはできませんが、もしレース委員会が間違いに気付いた場合には、レース委員会は、間違いを直すことができます。もし、レース委員会に直ちに伝えずにＢ旗が降下した場合には、在ったかもしれない間違いをチェックし正すための時間をとる可能性は、はるかに低くなります。たとえあなたが間違いはあったと信じていたとしても、そのことで救済要求することはできません。それは水上・陸上を問わず同じです。

チーフ・アンパイア
岡部　幸司
Koji Okabe
Chief Umpire